

# 平成29年度 学校自己評価システムシート(大川学園高等専修学校)

目指す学校像	校訓「自律 協調 奉仕」のもと、一人一人の生徒を大切に、社会に貢献する人材を育てる学校
重点目標	「チーム大川」として日々の教育活動に全力を尽くし、生徒・保護者・地域等からの信頼を得る ①どの生徒にも学ぶ喜びを実感させ、学力を着実につける ②深い生徒理解に基づく生徒指導を徹底し、進路実現をはかるとともに人格の完成を目指す ③地域等と連携し、開かれた学校づくりを進めるとともに安定した生徒募集を実現する

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校関係者評価委員会会議を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	事務局(教職員)	7名

学校自己評価		年度評価			
年度目標	平成29年5月16日実施	現状と課題	達成度		
1	○本校生徒の多くは基礎学力定着のため、中学校以前の学習から振り返る必要がある。授業は45分間で設定されている。教員は考えながら創意工夫しているが、受動的な学習になりやすい。一斉授業についていくことができない生徒のために、個々への対応や、毎週の基礎講座等の実施を行っている。また、本校の中で比較的成绩が上位の生徒に大学進学等も含めて、高度な教育機会を与えていくことが必要である。昨年度、ICT機器やアクティブラーニングを取り入れた授業に取組が始まったが、今後より一層の充実と推進が必要である。	◎これらの現状を踏まえ、生徒が受身だけの授業にならないように工夫していく必要がある。学習に必ずしも前向きではない生徒に対し、興味関心を持たせ、基礎学力の定着と共に学ぶ喜びを持たせることが課題である。基礎講座等の基礎学力定着の学習機会を設定していくほか、今年度はICT機器を活用し、アクティブラーニングを取り入れた授業を充実させ、引き続き授業改善に取り組む必要がある。このほか、SDMの授業をより充実したものにするための取組みを進める。	P(具体的方策)及びD(実行) ①昨年度作成したシラバスの活用を図り、わかる授業を推進する。 ②生徒の基礎学力を的確に把握するため、毎学期1回の実力テストを実施する。 ③e-ラーニングを導入し、基礎学力を定着させる。 ④文書能力検定等の資格にチャレンジさせる。ビジネス文書実務検定合格者50人以上を目指す。 ⑤毎学期1回以上、全ての教員によるICT機器を導入した授業を行う。アクティブラーニングを取り入れた授業改善を推進する。 ⑥全生徒への授業アンケートを実施し、授業満足度90%以上を達成する。 ⑦福祉科の施設実習を充実させるために、週1回の現場実習を計画的に実施する。 ⑧福祉の各種検定を実施し、福祉住環境コーディネーター試験、社会福祉・介護福祉検定試験の80%以上の合格を目指す。 ⑨一年間を通してSDMの授業を発表まで行い、成果を上げ、受講している90%以上の生徒に効果を感じさせる。	G(評価) ①45分間の授業を生かしたシラバスを作成し、各教科ともわかる授業を推進した。 ②毎学期1回の実力テストを実施し、生徒の基礎学力を把握した。 ③ラインズを導入し基礎学力向上に努めた。 ④ビジネス文書実務検定の受験者は177人、合格者66人で目標を大幅に達成した。 ⑤教員がICT機器を積極的に使用し、効率的な授業が実施されている。 ⑥生徒の授業満足度は80%であった。 ⑦福祉科の施設実習は計画的に実施された。週1回の現場実習も大きな成果があった。 ⑧福祉力検定2級合格者2人、3級合格者9人、福祉住環境コーディネーター試験3級合格者1人、社会福祉・介護福祉検定2級合格者2人、3級合格者3人であった。 ⑨一年間を通してSDMの授業を行った。2月26日に1年間の成果を発表する予定である。発表を受けて生徒に授業成果を確認させたい。	B
2	○年間を通して厳しくも温かい生徒指導が行われている。生徒の服装・頭髪を指導するだけでなく、体調や心理状態も把握でき、問題行動や不登校等を未然に防止するため、登下校指導を行なっている。また、チャイム着席やわかる授業により、学業や卒業に対する意識を高め、中途退学者を減少させている。数年前と比較して問題行動は減少し、安心安全な学校が定着してきている。教員による休み時間や授業中の巡回は年間を通して行われている。生徒が教員に対して相談を行いやすいような教育環境が整ってきている。時間厳守・話を聞く・指導を素直に受け入れる、という本校の生徒指導の基本があらゆる教育機会実践されている。また、生徒の服装等の身だしなみについても成果を上げている。進路指導は、進路決定率ばかりではなく、生徒に本当に合った進路であるかという進路適性率を高める必要がある。	◎今後も引き続き粘り強く生徒指導を徹底していく必要がある。問題行動を起さない、また、起きないような環境を作り出す積極的な生徒指導が必要である。本校には支援の必要な生徒が多く、相談しやすい環境整備が必要である。進路指導においては、計画的に進めると共に、高卒求人の新規開拓も必要である。	①登下校指導、服装・頭髪指導、遅刻指導を毎日実施し、頭髪服装等での指導件数ゼロ、年間延べ遅刻者数300人以下、交通事故件数ゼロを目指す。 ②チャイム着席、挨拶の励行を随時指導すると共に、休み時間や授業中の教員の校舎内巡回を実施する。チャイム着席100%を実現する。 ③問題行動を未然に防ぐため、担任指導・学年集会を有効に実施し、昨年度比で問題行動50%減、退学者30%減を目指す。 ④安全な教育環境の整備のため、毎日の日常点検と、学期1回ごとの設備定期点検を行う。 ⑤教育相談を充実し、学校カウンセラー等との連携を密にして、情報を共有する。 ⑥3年間を見通した計画的な進路指導の実践、分野別学校説明会を実施し、進路決定率95%以上、進路満足度90%以上、3年離職率30%以下を目指す。 ⑦継続的採用と新規採用企業開拓のための企業訪問を積極的に行い、求人件数20%増を目指す。	①登下校指導、服装・頭髪指導を毎日実施した。頭髪服装等で指導を受けた生徒が若干名いた。遅刻者数は12月31日現在で延べ527人、交通事故は登校中被害にあった生徒が1人いた。 ②チャイム着席、挨拶の励行を随時指導した。休み時間や授業中の校舎内巡回も実施した。しかし、チャイム着席の達成は約83%であった。 ③問題行動は12月31日現在で昨年度比13%の減で目標達成できていない。又、退学者は44%減少している。 ④安全な教育環境整備のため、毎日の日常点検と学期に1回の設備点検を行った。 ⑤学年と養護教諭が定期的に情報共有を行った。保健室やカウンセリングの利用のしやすさについて、生徒は31%、保護者は26%と低かった。 ⑥3年間を見通した計画的な進路指導を行い、分野別に説明会等で進路に対する意識の向上に努めた。進路決定率は2月19日現在で94.7%、満足度は75.5%となった。3年離職率については調査していく。 ⑦求人件数は昨年度とほぼ変わらなかった。継続的採用はほぼ維持できた。	B
3	○地域に根ざした学校づくりは本校の大切な方向性である。地域活動においては、ボランティア部が中心となり、市内のイベント参加や高齢者宅の訪問、震災復興元氣市への参加など地域と連携した活動に積極的に取り組んでいる。また、生徒募集は最も重要な業務でもある。本校への希望者は年々増加傾向にあり、今年度1学年の定員の充足率は115%となった。今後も生徒募集に継続して取り組む必要がある。また、開かれた学校づくりのための授業公開を実施している。	◎今後も地域に根ざした学校としての役割を果たしていく必要がある。夏と秋の飯能まつりへの積極的なボランティア参加を行うほか、高齢者宅への訪問や慰霊祭への参加等も引き続き行っていく。計画的な中学校訪問を実施することにより、強い信頼関係を築いていく必要がある。HPは有効な広報手段であり、毎日の更新や情報の掲載は今後も続けていく。	①日常的な授業公開を行うと共に、2週間の学校公開期間を年間に1回設定し、開かれた学校づくりを推進していく。 ②市内8校の中学校と市外中学校への出前授業の実施及び上級学校訪問の積極的受け入れを実施する。上級学校訪問受け入れ50%増、市外への出前授業20%増を目指す。 ③飯能市の夏・秋まつりへの積極的なボランティア参加を継続的に実施し、参加する生徒人数20人以上を目指す。 ④市内高齢者住宅へのボランティア訪問を実施し、参加生徒数10人以上を目指す。 ⑤震災復興元氣市へ継続的に参加し、参加生徒数20人以上を目指す。 ⑥中学校訪問等による積極的な生徒募集活動を行い、福祉科40名、普通科40名の定員を確保する。 ⑦情報の積極的発信のため、HPを毎日更新する。そのために、より見やすいHPへの変更を図る。 ⑧生徒募集を組織的に行う委員会を活用し、広報活動を充実させる。	①日常的に授業公開を行い、開かれた学校づくりに努めた。また、2週間の学校公開期間を11月に実施した。 ②市内8校の中学校と市外及び県外への出前授業は18%増、上級学校訪問は昨年度と同じ2校であった。 ③飯能市の夏・秋まつりへのボランティア参加を継続して実施した。25人以上の参加者があり目標を達成した。 ④市内高齢者住宅へのボランティア訪問を実施し、参加生徒数は15名以上で目標を達成した。 ⑤震災復興元氣市へ継続的に参加し、参加生徒は25人以上で、目標を達成する見込み。 ⑥全教員で中学校訪問や各種説明会等に参加し、積極的な募集活動を行ったほか、学校説明会を年間13回実施した。昨年度より2回減らしたが、参加者は510人で、ほぼ同数であった。2月13日現在での本校入学手続き者数は69人と昨年度の約13.11%増となっており、80名の定員確保が見えてきている。 ⑦HPを毎日更新し、情報の積極的な配信を行った。 ⑧昨年度組織された、入試募集委員会を中心に積極的な広報活動や学校説明会等を行った。	A

学校関係者評価	
実施日	平成30年2月20日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用した授業は、すでに義務教育で実践されているので、今後も一層充実させてほしい。</li> <li>・学びなおしに関しては、入学する生徒の多くが期待するところであるので、自信をつけさせてほしい。学校としても重点課題の最上位に位置づけしており、来年度大きなテーマとして準備している。具体的には、国語、数学、英語を習熟度に分けて実施する予定であり、期待したい。</li> <li>・資格は生徒にとって、大きな財産となるので、今後さらに継続し、発展させてほしい。</li> <li>・SDMは2年間の取組の成果として、プレゼンカの高まり、ディベート力の向上等の効果があげられる。本校以外では前例が全国で1校しかなく、今後も一層の成果をあげるように継続してほしい。</li> <li>・生徒指導について、生徒の表情が大変良い。学校内で生活している様子が、外の生活と一致しており、学校外でも落ちついた生活態度である。</li> <li>・南三陸へ行くなど、心の教育もできている。中学校でも参考にしていきたい。</li> <li>・福祉科は実習があり、職業訓練等の成果が出ている。普通科にも職業訓練というキャリア教育を再導入することを検討してほしい。5月から6月頃、企業訪問等の機会を使い、生徒の様子を就職した現場の方に聞くようにしている。また、3月に2年生対象の卒業生報告会を実施し、職場の状況を理解してもらう機会を作っている。</li> <li>・卒業後の助言・サポート等についても研究してほしい。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉科の出前授業は、中学生は毎年楽しみにしている。今後も継続して行ってほしい。</li> <li>・大川学園=ボランティア活動のイメージがある。ぜひ今後も活発なボランティア活動をお願いしたい。</li> <li>・毎年、自治会の祭りなどの市内行事に参加してもらい、助かっている。今後もコミュニケーションをとりながら行ってほしい。</li> <li>・年々同窓会への参加者が減っている。OB・OGの組織の維持は大変だが、中心となっている人間が高齢化すれば、新しい人材に受け継がなければならない。同窓会を永く存続し、活発な活動をしていくためには必要なことである。旧校舎の取り壊しに併せて同窓会が集まれるような企画を期待したい。</li> <li>・学園祭に同窓会として出店等参加できないか、検討をお願いしたい。</li> </ul>	